

※ 倉谷さんの休日 ☺

- 8:00 起床
- 9:00 朝食
- 9:30 娘と散歩へ

公園に遊びに行きます



- 12:00 昼食
- 13:00 家族で買い物へ



- 17:30 帰宅
- 18:30 夕食

娘といも団子を作りました!



- 21:00 読書
- 23:00 就寝



【会社情報】



株式会社いたがき

赤平市幌岡町113番地 TEL 0125-32-0525
<http://www.itagaki.co.jp/>
 従業員数/85名
 事業内容/皮革製品の企画・製造・販売

タンニンなめしの革を使った鞆作りで知られる。札幌、千歳、東京、京都と6つの直営店を持ち、全国に根強いファンを持つ。本店ショールームにはカフェがあり、お客様とスタッフのふれあいの場となっている。

誰のためでもない、お客様のためのものづくり。だからこそ「お客様のリアルな声を聞くことは大切です。うちの商品は長く愛用されている方が多く、使い手の思いに触れることで、修行のモチベーションが高まることも少なくありません」。お客様との対話の中から、使い手の思いや要望を掴んでいく。それが人の心を掴む商品作りにつながるのだ。

倉谷さんは言う。「嬉しいのは、やっぱり鞆が完成したとき。そして、

人の心を掴むものづくり



それを使ってもらえたときです。のり付けのときも、ミシンを踏んでいるときもプレッシャーです。失敗できません。製品作りはチームプレーなので。こうしたものづくりの連携は、会社を超えて地域にも広がっているという。

企業を超えた連携が地域を盛り上げる

倉谷さんは小樽市出身。20代半ばまで、札幌で音楽活動をしてきた。「家庭を持つことを考えて、音楽はやめようと思ったとき、興味を持ったのが革製品でした。よく身につけていたの。ものを作るのも好きでした」。自然に囲まれた赤平市の環境は、ものづくりに集中できるという。「地方のほうが、五感がとぎすまされる感じがします。恵まれた環境です。だから、ここで働きたいと道外から来ている人も多いです」。いたがきのもので、心に掴まれるのは、使っただけではない。作り手にとってもまた魅力的である。

お客様に喜んでもらえるものづくりを。



赤平市

株式会社いたがき
製造部 縫製課

くらや たけお
倉谷 健生 さん

(31)

小樽市出身。同社では勤続5年目になる。20代のころは、札幌で音楽活動に打ち込む。現在は、一児の父。休日は家族サービスに励む。

魅せられる商品を作るのがプロの技



「鞆を組み立てるところまではできるんです。でも、魅せる商品を作れるようになるまでが難しい。まさに職人技です」と話してくれたのは倉谷健生さん。俵いたがきの製造部で、製品作りに打ち込む。

職人への道は、修行の日々だ。倉谷さんは「スキルアップのために、仕事が終わった後もミシンを踏む練習などを行なっています。千里の道も一歩から。そう言わねばかりに腕を磨く日々が続く。実は、人材育成に力を注ぐ同社。その一環として、製造部のスタッフが販売に立つことがあります」。



※ 土井さんの休日 ☺

7:00 起床 

8:00 朝食 

9:30 買い物 
滝川市へ家族で買い物に行くことも

12:30 昼食 

14:00 子どもと散歩 
毎週の楽しみです

18:00 夕食 
休日は家族揃ってうちごはん!

22:00 就寝

【会社情報】



株式会社ソラチ・クォーツ

歌志内市文珠189番地22 TEL 0125-42-5551
<http://www.sorachiquartz.co.jp/>
 従業員数/31名
 事業内容/水晶デバイス(水晶素板・水晶振動子・水晶フィルター等)の製造・販売

人工水晶を原材料とし、電子回路に組み込まれる水晶デバイスの製造・販売を行う。活動エリアは日本国内のみならず、アメリカやヨーロッパなど世界を相手にビジネスを展開する。



静かな環境で
集中して働けるのが
いいところです。

歌志内市

株式会社
ソラチ・クォーツ
土井 宏和 さん
(33)

芦別市出身。芦別市内の工業高校を卒業後、同社へ入社。勤続15年で、係長を務める。休日は、子どもと遊ぶ日々。



都会ではありえない
自然に囲まれた環境で働く

こうした水晶デバイスは、基本的にオーダーメイド。クライアントからの要望に合わせて、製品を仕上げていく。土井さんは水晶デバイスの周波数を調整する部署で働く。「扱うのは1cmにも満たない小さな精密機械。作業は本当に慎重に行います。ピンセットを使い、ものをつかむ、リングに入れるなど繊細な作業がずっと続くのが大変。集中力が求められます」。山の麓に位置する非常に静かな仕事環境は、集中して働くには最適だという。



また、係長として部署全体についても気に留めるようになった。「自分たちの生産性が高まることでチームの士気も上がり、会社の売上が伸びていくのはやりがいです。結果が出れば達成感につながります」。

浸かればとれる
一週間の仕事の疲れ



細やかに神経を使う仕事のため、目や肩に負担がかかる。溜まった疲れを癒してくれるのが、地元の温泉だとか。「週末はほぼ温泉に行きます。チロルの湯という地元の温泉が大好

電子機器を動かす司令塔
水晶デバイス



早朝には山頂から雲海を望めることもある神威岳の麓に、(株)ソラチ・クォーツはある。クォーツという通り、人工の水晶を使った電子部品「水晶デバイス」を製造・販売している。
 同社製造部門の土井宏和さんは言う。「パソコンや携帯電話などの電子機器は、水晶デバイスがなければ動きません」。電気を通すと機械的に振動する水晶の性質を利用し、電子機器のあらゆる動作の命令を出すのが水晶デバイス。言わば電子機器を動かす司令塔だ。「身近で活躍する部品なので、仕事はやりがいがあります」。

き。一週間の仕事の疲れを取ります。毎週通っているため、チロルの湯で顔見知りが増えることも。年配の方たちはとても物知り。学べることが多くて楽しいです。中空知には「フレンドリーな人が多いのかも」。
 お子さんが生まれてからは、「ひまがあれぱ子どもと遊んでいます。あとは滝川市まで家族で買い物に行くこともしばしば。滝川市は歌志内市からも近いので、「平日は仕事に集中し、休日は平日の疲れをしっかりと取り、そんなメリハリのある生活も、中空知ならではの暮らしではないだろうか」。

※ 及川さんの休日 ☺

休日でも早起き!

6:00 起床 

7:00 朝食

8:00 ゴルフ 
会社近くのゴルフ場によく行きます!

13:00 昼食 

16:00 買い物・帰宅

平日の分を
作り置きします

17:00 料理 

19:00 夕食 
寝る前に
ストレッチをします

23:00 就寝 

【会社情報】



北海道住電精密株式会社

空知郡奈井江町字奈井江776番地 TEL.0125-65-5501
http://www.nnss.co.jp/hokkaido/
従業員数/約500名
事業内容/刃先交換チップ及び完粉(超硬合金用粉末)の製造

1972年、住友電気工業(株)の100%子会社として奈井江町に設立。主力製品である超硬合金の刃先交換チップは、自動車をはじめ、鉄鋼や造船、IT産業など幅広い工業分野で使われている。

切削工具が提案できること

今の時代、ものを作っているだけでは売れない。そこで同社には販売と生産現場の橋渡しをする、戦略的な施設がある。それが工場併設の北海道ツールエンジンアリンクセンターだ。

「製品紹介や新製品のPRはもちろん、製品のデモンストレーションもできます。こういう作業にはこの製品がいいですよとか、この製品ならもっと効率よく作業ができますよ、といった現場の最適化まで提案。」



私の仕事は工場に見学に来られたお客さまをご案内し、説明やデモンストレーションを行なうこと。直接売上に貢献することは少ないですが、お客様に説明して提案したことで、売上につながったと言われることも嬉しいです。

地方から世界に発信していく

道外から来たお客様を案内することも多い及川さんですが、もともとは岩手県出身。「大学進学を機に北海道にきました。もう北海道にいる方が長くなっちゃいましたね」と笑う



及川さん。「僕は岩手の山奥の出身なので都会すぎると肌に合わなくて、だから人混みや渋滞が苦手な人にとって、中空知はとても住みやすいと思います。」

住みやすさの理由は中空知の気候にもあり、会社立地の利点にもなっている。「原料である金属の粉は湿度管理が重要。奈井江町は湿度が低いので、原料管理には最適です」。質の高い製品にこだわる。そんな気概と確かな提案力で、世界のものづくりを、地方から支えている。

提案したいのは
お客さまの
課題解決です。



奈井江町

北海道住電精密株式会社
インサートビジネス推進部
ビジネスソリューショングループ

及川 浩和 さん

(38)

岩手県一関市出身。滝川市在住。大学進学を機に北海道へ。今では道産子歴20年。現在の職場は8年目になる。休日はゴルフやスノーボード、料理。

ものづくりを支える
ものづくり

説明が、なんてわかりやすいのか。パソコン画面を見せて、すらすらと製品を解説してくれたのは北海道住電精密株の及川浩和さん。「うちの製品を簡潔に言う」と鉄を削る刃物でしようか。それが、切削工具。7割を海外に輸出する同社の主力商品だ。

例えば、自動車の部品を作るとき、製造の現場では多くの機械や道具を使う。「その道具の一つが、我々の製品。部品を削る道具です」。その数は2千〜3千種類。そのため、及川さんは「お客様に最適な製品や使い方を説明し、製造現場の最適化を提案しています。」



※ 山本さんの休日 ☺



【会社情報】



マイクログラス株式会社
ガラス部

空知郡上砂川朝駒2条3-2-1 TEL 0125-62-5959
従業員数/110名
事業内容/医療用スライドグラス・カバーガラスの製造・販売

医療用スライドグラス製造メーカーは国内で2社のみ。同社はそのうちの1社。製造されたスライドグラスは道内はもちろん、船便で大洗を経由し、上砂川町から日本全国の検診を支えている。



検診、受けてくださいね。
結果が正しく届くよう、
頑張りますから。

上砂川町

マイクログラス株式会社
ガラス部

山本 ちづ子さん
(65)

上砂川町出身。同社が上砂川町に創業した当初からのスタッフ。勤続25年。休日は娘と孫と、地元のおいしいものを食べに行くのが楽しみ。



健康診断で忙しいのは
病院だけじゃない

年度が変わる春。医療機関では、会社や学校の集団検診の実施がピークを迎える。「がん検診や内視鏡検査などで採取した細胞は、「スライドグラス」という薄いガラス板に載せられて、病院の臨床検査室などへ回されます。当社では、そのスライドグラスを製造しています」と話すのはマイクログラス(株)の山本ちづ子さん。「中でも、私はスライドグラスにナンバーリング、つまり順番で番号を振る仕事をしています」。これが、実際に気を張り詰める作業だと山本さんは言う。

検査結果が届くまで
気が抜けない



企業の集団検診ともなると、一度に何百人もの細胞を採取することも少なくない。そんなとき、「もしプレートがナンバーがダブっていたり、プレートのナンバーがずれてしまったり。検査した人間が入れ替わってしまします。だから、ミスは許されないうちに緊張感があります。でも無事に納品されると、ほっとするし、やりがいも感じます」と山本さん。



めにも受けてくださいね。私たちも医療業界の片隅で、検査結果が正しく届くように頑張りますから」とやさしく声をかけてくれる。この地域の人は、山本さんのように面倒見のいい人が多いという。

炭鉱マン気質が
今なお根付いている



「上砂川町は、昔炭鉱があったのでしょ。だから、今もその名残が地域の人に根付いている気がします。炭鉱があったころの元気な感じとか、一

生懸命なところとか。人を気にかける感じとかね」と山本さんは話す。「あとは、お米がすごくおいしいと思います。あと、お水もおいしい。上砂川町ではニジマスの養殖をやっているんですけど、それってお水がきれいじゃないとできないんです。放流もしてるので、近くのパンケ歌志内川では溪流釣りが人気で、週末にはたくさん車が止まっていますよ」。今も昔も、自然とともに生きてきた。そこで培ったエネルギーが、今なお地域の元気を支えているのかもしれない。

※ 秋保さんの休日 ☺



5:00 起床

5:15 裏山に行って
リスにエサやり

7:00 朝食

12:00 昼食

13:00 外出

18:00 夕食

19:00 帰宅

24:00 就寝

出先で食べる
ことが多いです!

サークルの仲間と
札幌方面に
小旅行に行きました!

冬はスキーも
やります!

浦白町の風景を
よく撮ります!

【会社情報】



有限会社 鶴沼ワイナリー
北海道ワイン(株)直轄農場

樺戸郡浦白町於札内428番地17
TEL 0125-68-2646
http://www.hokkaidowine.com/index.html
従業員数/35名
事業内容/ワイン用ブドウの栽培

小樽市に本社を構える北海道ワイン株式会社の直轄農場。敷地面積は447ha。東京ドーム100個分。ヴィンヤード(ブドウ畑)としては日本一の広さを誇る。直売所では試飲ができるものもある。空知のワインブームの先駆けとなったワイナリーだ。



ワインと浦白の
魅力をもっと
伝えたいです。

浦白町

有限会社
鶴沼ワイナリー
あきほ
秋保 義幸 さん
(58)

浦白町出身。生まれも育ちも浦白町で、鶴沼ワイナリーでは勤続14年目。趣味は写真やスキー、そしてワイン。



ワインはね、畑から
生まれるんです



「ワインはブドウが全て。いいブドウを育てるには、枝葉を上に乗ばしたいの。だからブドウ周りの余計な葉は全部切っちゃおう。そう教えてくれたのは、この道14年になる秋保養義さん。驚くのは、その作業スピード。一列50m近く並ぶブドウの木の葉を、手作業であつという間に切っていく。毎日畑でブドウを見てると、ワインは畑から生まれるんだと実感します」。

取材中、楽しそうに話す秋保さんだったが、「最初はきつくて3日でやめようと思ったんだよね(笑)。しかも僕、うつ病だったんです」。

働き始めてうつ病が治った

それは意外な告白だった。「40歳くらいとき、事務職で朝から晩まで仕事してたの。でも病気で入院して、職場の上司とも折り合いが悪くなって。このままじゃだめだ、と転職したら、そこでもうまくいかなくて。そのうち、ごはんが食べられなくなって、眠れなくなって。おかしいなと思って病院行ったらうつ病だと言われました」。そんなときだった。鶴沼ワイナリー前農場長と知り合いだったのが縁で、季節職員として働くことになる。

「驚くことにワイナリーの仕事を始



めたらうつ病が治ったんです。外の仕事だから、ストレスがない。治ったからね、空つてこんなに青いんだつてびっくりした。食べものがおいしくて、自然も豊かで。ずっと住んだのに何で気づかなかつたんだろうって。そんな浦白町の良さを伝えたくて写真を撮り始めたんです」。

続けられるのは
収穫の喜びがあるから



「写真を撮り始めたら、浦白町の良いところがどんどん見えてきた。やつぱり浦白町の魅力は自然だと思ってるから、そ

れを伝えたい。移住を考えてる人がいるならぜひ来てほしいです。そんな思いが高じて、秋保さんの写真はポストカードとして道の駅等で販売されている」。

「僕ね、今が一番楽しんでいますよ。ワイナリーの仕事が続けるのは、やつぱりワインが楽しいから。事務職の頃は仕事にキリがなかった。資料作っても、何にも残らなかつた。大事なものは幸せかどうか。ワイン飲んで、おいしいもの食べてたら幸せでしょ? 仲間も増える。ワイナリーの仕事はさ、その幸せの根っこを作ってるのが素晴らしいと思うんだよね。その収穫の喜びがあるから、頑張れる。そう思います」。

